

平成27年度 学校評価報告書

【国立市立国立第五小学校】

学校教育目標	○学びあう子 助けあう子 きたえあう子	重点目標	○学びあう子
--------	---------------------	------	--------

育学校教 育目標	中期的 目標	短期的目標 (以下のことがで きる児童を育成す る)	具体的な方策	評価指標	達成状況		分析	改善策	学校関係 者 評価
					中間評価 (7月)	最終評価			
「確かな学力の向上」 学びあう子	成 ○基礎的な知識及び技能の定着 ○身に付けた知識及び技能の活用する力の育成	① ■正しい鉛筆の持ち方 ② 学年配当の読み書きの基本的な仕方 ③ 自分意見言も ④ 見通しを立てて仮説を記述(3, 4年) ⑤ 問題の解決をこ ⑥ 図り、学んだこ ⑦ 振り返り ⑧ 考察を記述(5, 6年)	○毎月第1週目は「えんぴつの1週間」とし、「OKマ」を全校級で確認させ、意識の向上を図る。 ○正しい鉛筆の持ち方ができない児童には、補助具を貸し出し、正しい持ち方を定着させる。	身に付いた児童が A 65%～ B 55%～ C 55%未満	C 40.7%	C 49.6%	改善はされているが、長い間に悪しき習慣となったものの改善は難しい。最終評価で正しく持っている児童が5割に満たない。	教員から提示された具体指し出される。補助具の貸し出しなど、具体的な対応を今後も継続する。	・先生方の努力は数値の向上に表れている。「仮説→考察」の研究の積み重ねも、成果報告会でよく理解できた。ただ、教師の力量に差があるのは感じる。そこをカバーする「スタンダード」を作成できないか。
			○ベーシックドリル等を活用しながら、前学年までに配当されている漢字の読み書き、計算の練習をさせる。 ○漢字の読み・筆順・熟語の確認・繰り返し書き取り練習を毎日取り入れ継続する。	平均正答率 A 90%～ B 80%～ C 80%未満	C 76.0%	B 85.7%	取組において一定の成果は出ている。	引き続き具体的な方策に則り指導する。	
			○発問を工夫し、全員が挙手できるような場面を授業に取り入れる。 ○教師が範を示しつつ、子供の発言を最後まで聞く姿勢をもつ。 ○話型を各学級で掲示し、語尾を意識して発言できるように指導していく。	達成した児童が A 80%～ B 70%～ C 70%未満	C 24.0%	C 45.1%	達成状況は改善されているが、達成したい指標からは程遠い結果であり、本校の大きな課題である。	管理職による授業観察、日々の教室巡回の際に、教員に個別の指導を行うと共に、掲示物などを統一し、児童への啓発に努める。	
			○仮説 ①文型(話型)を用いて表現させる ②記述の観点を与える。これにより、学んだことを活用し思考力・判断力・表現力を高めさせる。 ○考察 ①記述の観点を与える ②記述した文章を友達と交流させる。これにより、学んだことを振り返り思考力・判断力・表現力を高めさせる。	A 80%以上達成 A 55%以上達成 B 75%以上達成 B 50%以上達成 C 75%未満 C 50%未満 (上段3, 4年下段5, 6年)	C C 60.0% 48.9%	C A 72.0% 62.0%	「くにごメソッド」により、思考を記述していくことには一定の成果が表れている。	高学年については、評価観点の見直し(ノート分析の際の評価の観点)も必要かと考える。積み重ねによる力はついているので、今後も「くにごメソッド」の継承は行っていく。	
			○年2回「いじめアンケート」を実施し、予防策・早期発見に努める。 ○人権月間に、ビデオ・DVD教材を活用し、自分や他の命を大切にしようとする態度を育む。 ○5・6年生全員とスクールカウンセラーの面接・給食交流を行い、相談しやすい環境を整える。	A 100%の児童がいじめをしな B 90%の児童がいじめをしな C いじめをしな 児童が90%未満	C 88.2%	B 94.8%	教員の取組が一定の成果を上げている。	理想ではあるが目標はあくまで100%としたい。教員への研修、子供たちへの啓発を継続し、万が一の際には外部委員会の開催などを含め迅速に対応する。	
「豊かな心の育成」 助けあう子	も ○社会の一員であるという自覚と規範意識をもち、他人も大切にすることを育む。 ○自己肯定感をもち、他人も大切にすることを育む。 ⑤ ◇仲間外れが嫌いな ⑥ ■自己肯定感が高い児童 ⑦ ■周行事を愛する ⑧ ◇すれ違っ先生や外部の方(明確な人など)挨拶	○自尊感情アンケートを実施し、結果を基に個々に合った自信の持たせ方を教職員全員で共有する。 ○児童の表現活動(文章・発表・作品・演奏等)を交流し合う場を設け、よさを伝え合い、互いを大切にしようとする態度を育む。 ○保護者との面談等を通し、児童のよさや、つまずきを共有し、児童に自信をもたせる。	自己評価・自己受容の 平均値が2.9未満 A 10%未満 B 15%未満 C 15%以上	C 23%	C 37%	今回、数字としては後退している。ただ、低学年が自分を客観的に見ることができるようになってきたための低下ということもあるかもしれない。	来年度は2.9未満という数字の見直しを含めた評価指標の検討を行う。平均値が1点台の児童を減らしていく取組を行っていく。		
		○「トライ&チャレンジ」の活動を通し、地域に関心をもたせ、自分が地域の一員であることの自覚をもたせる。 ○地域行事(お祭り・芸小ホールのイベント・ラジオ体操等)を紹介し、参加を促し、地域の方との交流を図る。 ○五十周年行事(児童集会・作文・写真撮影等)にめあてを持ち、すすんで参加できるように指導する。	A 地域・学校が好きである児童が95%以上 B 80%以上 C 80%未満		C 73.8%	教員の自己評価であり、客観的なデータというよりは、やや感覚的な数値となっている。	評価方法に、児童アンケートなどの客観的な数値が出るものを取り入れる必要があった。		
								・周年行事はよかった。子供たちも満足したのではないか。	

			○各学級で作成した「あいさつ宣言」を校内に掲示し、年間の通して適切なあいさつに対する意識を高める。 ○高学年の児童には、あいさつ当番等の活動を通して手本となるあいさつをさせる。 ○教職員が手本となるあいさつを行う。	A 身に付いた児童が 95%以上 B 90%以上 C 90%未満	C 82.9%	C 85.3%	あいさつ当番、挨拶宣言とも、一定の成果は上げているが、ややマンネリ化していることや、質の低下が懸念される。	教職員の意識啓発、校内の取組のスタート時の、校長講話・担任の指導など、「大人の本気」を見せて指導していく。	
「たくましい体の育成」	きたえ合う子 ○基礎的な体力の向上 ○心身の健康づくりの向上に努力する児童の育成	⑨ 基礎的な体力の向上	○年間15回、水曜日の中休みに「ハリアップタイム」を設定し、クラスごとに、体力向上を図るための運動に、順次取り組ませる。 ○体育委員会による「ハリアップイベント」を学期一回開催し、体力向上を図った運動を、ゲーム感覚で楽しませ、みなが行う。どの簡単な器具を置いて握力や手首の強化を児童に促す。 ○各クラスで1年間を通して行える体育的活動を「位置学級一実践」として、設定する。 ○柔軟性を高めるために、「くにごストレッチ」を体育の準備運動に取り入れる。	スポーツテストで都平均と同じか上回る 種目が A 75%以上 B 70%以上 C 70%未満	C 66.7%		特に力を入れていた項目について、「握力」は成果が見られた学年もある。「長座体前屈」は、成果が出た学年もあり、取組みの見直しが必要である。3年生が押しなべて低調である。	現在、高学年は押しなべてほとんどの項目で都の平均を上回っている。この傾向が続くなら、本校の取組がその蓄積により成果を上げていると言える。引き続き、PUT・PUEなどの本校独自の取組を続けていく。	・育成会ソフボール出身で、東京都の代表に選ばれた児童もいる。児童の、残菜を減らす取組は有意義である。
		⑩ ◇自分の体い健康に生活を送る ⑪ ■好きな食事を食べる	○体力向上に関するお便りや保健だよりにて、早起きなどの大切さを伝え、保護者への意識啓発を行う。 ○養護教諭による保健指導を通して、自分の体への関心を高め、健康の大切さを理解させる。 ○健康診断の結果、季節など、児童の実態に応じた健康課題を解決するための活動を保健・給食委員会で取り組んでいく。	早寝早起き朝ご飯がほぼ(週4回以上)できている児童が A 90%以上 B 80%以上 C 80%未満	C 77.1%	C 75.6%	朝ごはんについては、ほとんどの児童が毎朝きちんと取れている。早寝・早起きについては、全体に数値が下がっていく。	学校での取組は児童への意識啓発に留まる。家庭での意識が高まるように、繰り返し地道に発信していく。	
			○校長講話で、食についての話をし、残菜減量についての意識啓発をする。 ○給食指導員を基に、各学級で、残菜減量に向け声かけをする。 ○食育月間で、発達段階に応じた食育指導を行う。 ○児童の実態に応じた残菜減量のための活動を保健・給食委員会で取り組んでいく。	A 残菜1%以上(おかず)の品目が15%以下 B 20%以下 B 20%以上	C 38.9%	C 41.7%	数字の上では後退したが、給食週間の取組は児童の意識を高め、かかなりの成果を上げている。	給食週間の取組(もぐもぐタイム、残菜計測など)を今後も行い、それ以外の時にも完食することを習慣化するよう指導する。	

達成状況の指標

各項目の評価指標を参照